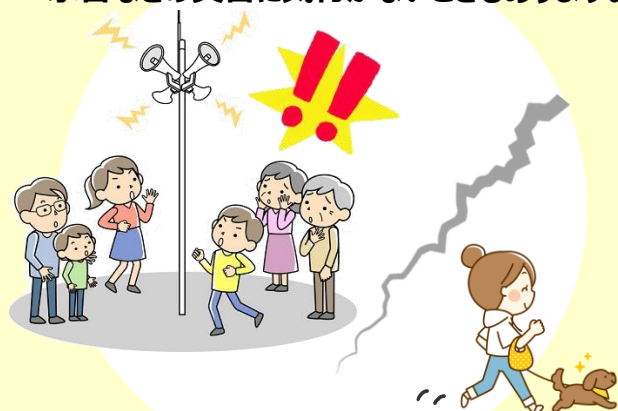


きこえない・きこえにくい人は 災害時に、どんなことに困るの？

音声言語による災害情報が伝わりません。
水害などの災害に気付かないこともあります。



被害状況や避難場所についての情報が
なかなか得られません。



テレビなどの映像だけでは、
内容がわかりにくい。



ラジオからは、
情報が得られない。

呼びかけが聞こえず、
捜索者の存在に気付かない場合があります。

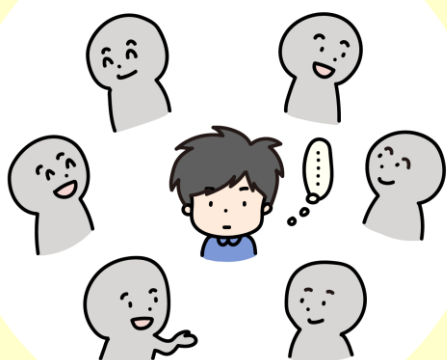


避難所での放送や呼びかけが聞こえず、
食事の提供などの支援がなかなか受けられな
いことがあります。

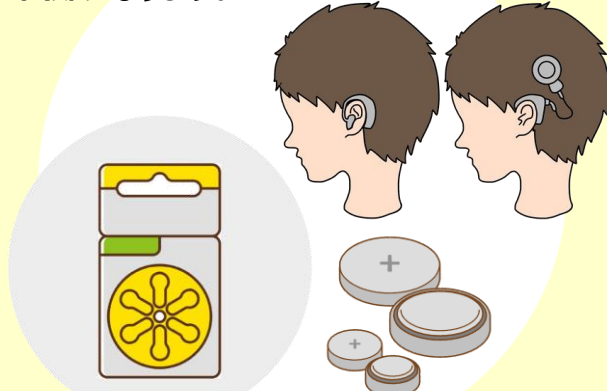


今、どんな状況だろう・・・。
食べ物はもらえるのかな・・・。

コミュニケーションがうまくとれず、
孤立することがあります。



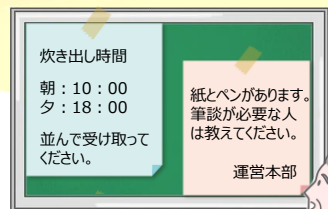
補聴器や人工内耳などの電池の入手が
困難になります。



避難所での「情報の見える化」

掲示板の活用

放送内容や広報情報は、音声での呼びかけだけでなく、掲示板やホワイトボードに記入者・日時を添えて掲示しましょう。「手話通訳は必要ですか?」「筆談は必要ですか?」などの掲示を、誰からでも見える場所に貼り出しましょう。

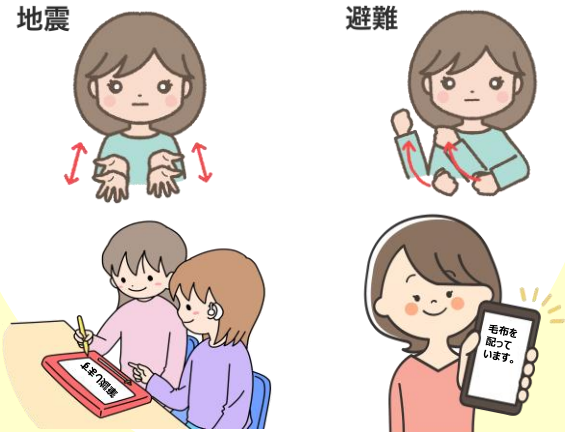


筆談やスマホのメモなどの活用

きこえない人には口形だけでは正確に伝わらないため、手話言語や筆談、スマホのメモ画面を活用しましょう。

地震

避難



ヘルプマークなどを見たら

「ヘルプマーク」を持っている人にはどのような配慮が必要なのかを確認しましょう。



合図による告知

音声で情報を発信するときは光などの合図で告知しましょう。



サポート体制を整える

避難所の担当者はきこえない当事者がいることを共有して必要なサポートをしましょう。



きこえない・きこえにくい人の コミュニケーション方法は？

～ コミュニケーション方法の確認 ～

- 大きな声で話せば大丈夫か、手話言語や筆談など、どんなコミュニケーション方法が必要か確認しましょう。
- 後ろから話しかけられても聞こえないのでわかりません。相手の顔が見える位置で話してください。
- 最後にきちんと伝わったかを確認してください。



手話言語

きこえない人たちが気持ちや考えを伝えあう大切な言語です。
手と指だけではなく、身体・目・顔の表情などを使って、話をします。



間違いを恐れずに
積極的に表してみましょう。



筆談

紙や手のひらに、文字や数字などを書いて、言いたいことを相手に伝えます。



ポイントを簡潔に、漢字もひらがなに
変換せず、短く書きましょう。

例：食料の配布は10:30からです。

↓
10:30～ 食料配布



指文字

日本語の50音を指の形で表します。
物や人の名前を表すときに使います。



相手によく見えるように表しましょう。

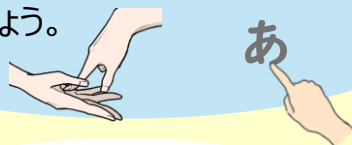


空書

空中に文字を書いて、相手に伝えます。
書くときは自分から見て書きます。



伝わらないときは手のひらに書いて
みましょう。



身ぶり

身体の動きやしぐさを使って感情や意
思を相手に伝えることができます。



口形と普段使っている動作も一緒に
表すとわかりやすいです。

トイレは
あちらです



口話

言葉の区切りを意識して口をはっきりと
動かします。(例：昨日／テレビ／見た？)



相手の顔を見ながら、話しましょう。
身振りを付けるとより伝わりやすい
です。

